

国府校下のまいぶんマニュアル

☆☆国府校下ってこんなところ！☆☆

地形／国府校下は、梯川流域の平野と、その平野を見渡す

台地・丘陵にあります。平野には弥生時代以降、肥よくな水田地帯が広がり、台地・丘陵には縄文時代以前から人々が住み始め、やがてさまざまな土地利用がされます。市内でも特に重要な遺跡が密集する校下です。

ぜひ授業で紹介してほしいポイント！



地形の説明



約2万年前の石器

年表に登場する遺跡1／八里向山遺跡群（八里台）

おもな時代は旧石器時代～室町時代

ポイント①＝約2万年前（縄文時代よりも前）から断続的に続く大遺跡。

ポイント②＝縄文時代の生活のあと、卑弥呼の時代のむら、古墳時代の古墳、飛鳥・奈良時代のやきものの窯跡、奈良時代の山寺（仏教の修行やお祈りをする場所）、鎌倉・室町時代の塚墓（死者を供養したり埋葬したりする場所）など、多種多様な発見がありました。



国府校下の遺跡

年表に登場する遺跡2／河田山古墳群（国府台）

おもな時代は古墳時代～飛鳥時代。教科書の小単元は「縄文のむらから古墳のくにへ」。

ポイント①＝60基以上からなる大古墳群。現在は国府台住宅団地となっています。

ポイント②＝西暦300～400年代の古墳と飛鳥時代の古墳があります。飛鳥時代の12号墳は、精巧な切石積横穴式石室で、朝鮮半島の王墓が原型となる可能性があります。



河田山12号墳

ポイント③＝国府台には、資料館や古墳公園があります。ぜひご覧ください。



加賀国府ものがたり館



WEB版南加賀古墳探訪マップ

●「国府」の由来

その1＝西暦823年に誕生した古代加賀国。その政治と文化の中心が「国府」と呼ばれました。

その2＝古府町は「古濱村」と「国府村」が合併した町で、総社（加賀国内の神を合祀した神社）や国分寺の推定地などがあり、特に重要な場所です。



加賀国分寺推定地（十九堂山遺跡）